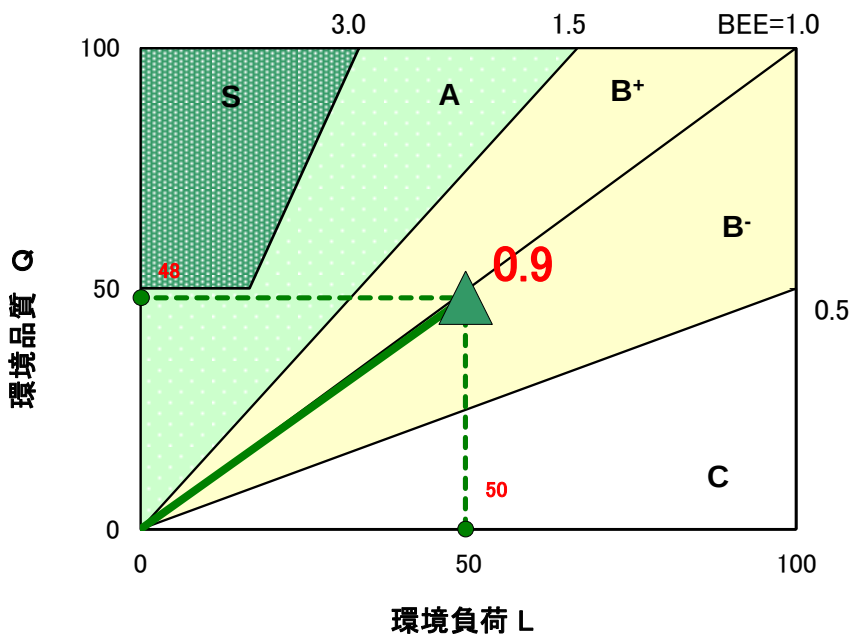


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)オーヴィジョン九品寺	階数	地上14F	
建設地	熊本市中央区九品寺二丁目8番23	構造	RC造	
用途地域	商業地域、近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	0 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年	
建物用途	集合住宅、工場、	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2017年11月2日	
敷地面積	1,209 m ²	作成者	(株)K・Tプランニング	
建築面積	520 m ²	確認日		
延床面積	5,281 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果				
■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)				
		BEE = 0.9		■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$
		■ 環境効率評価基準		
		ランク	ランク表示	評価
		S	★★★★★	素晴らしい
		A	★★★★★	大変良い
		B ⁺	★★★★	良い
		B ⁻	★★★	やや劣る
		C	★	劣る
■ ライフサイクルCO ₂ 排出性能(ランク表示)		■ ライフサイクルCO ₂ 排出性能評価基準		
		判定値(排出率)		ランク表示
		30%以下		☆☆☆☆☆
		30%超60%以下		☆☆☆☆
		60%超80%以下		☆☆☆
		80%超100%以下		☆☆
		100%超		☆
		排出率		
		70%		

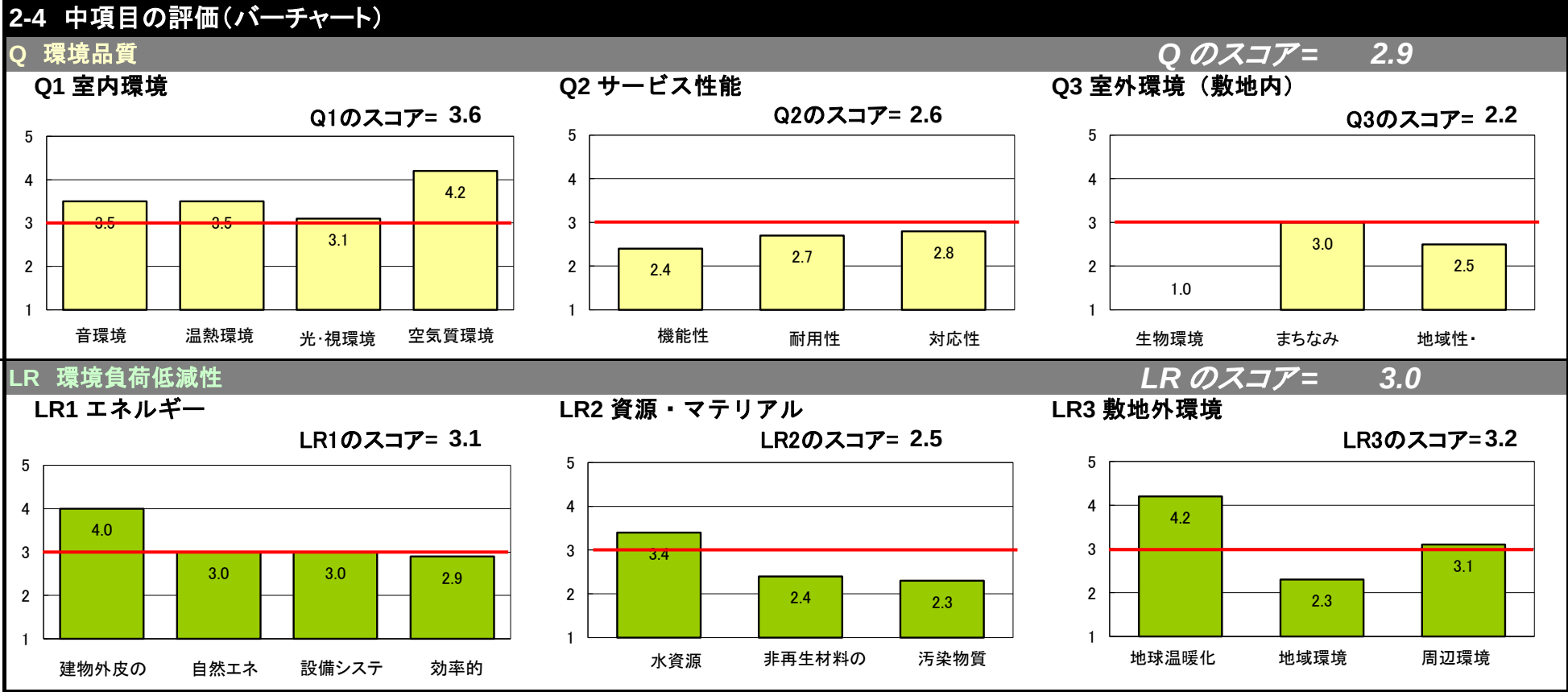
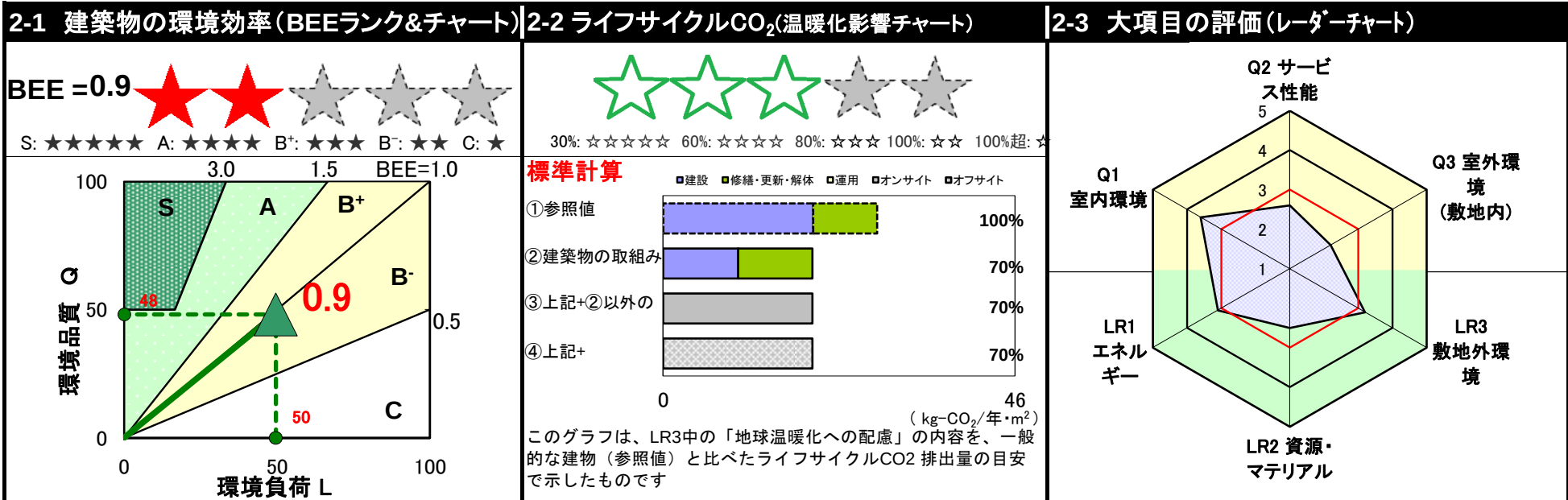
2 熊本県重点評価結果				
■ 重点事項総合評価				評価点
				67
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進		評価点	■ 熊本県重点評価基準	
		71.2	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現		57.5	100点以上	
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全		75.0	80点以上100点未満	
【重点事項4】 循環型社会の実現		62.2	60点以上80点未満	
			40点以上60点未満	
			40点未満	
※評価点は、100点以上が推奨です。				

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)オーヴィジョン九品寺			階数	地上14F
建設地	熊本市中央区九品寺二丁目8番23			構造	RC造
用途地域	商業地域、近隣商業地域、準防火地域			平均居住人員	210 人
地域区分	6地域			年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅、工場、			評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年7月 予定			評価の実施日	2017年11月2日
敷地面積	1,209 m ²			作成者	(株)K・Tプランニング
建築面積	520 m ²			確認日	
延床面積	5,281 m ²			確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)オーヴァージョン九品寺

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.9	
Q1 室内環境					0.39		-	3.6	
1 音環境				3.0	0.15	3.6	1.00	3.5	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音				3.0	0.50	4.3	0.50		
1 開口部遮音性能		住居部分 T-2仕様		3.0	0.98	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能		Dr-50		3.0	0.02	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		LL-45		3.0	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		LH-50		3.0	-	4.0	0.20		
1.3 吸音				-	-	3.0	-		
2 温熱環境				1.0	0.35	4.0	1.00	3.5	
2.1 室温制御				1.0	0.50	4.0	1.00		
1 室温				1.0	0.61	-	-		
2 外皮性能		等級4相当		1.0	0.37	4.0	1.00		
3 ゾーン別制御性				1.0	0.02	-	-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.7	0.25	3.2	1.00	3.1	
3.1 昼光利用				4.2	0.30	3.4	0.50		
1 昼光率		共用部分:3.8%、住居部分:2.2%		5.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口				-	-	1.0	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				1.0	0.30	3.0	0.50		
1 昼光制御				1.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				4.1	0.25	4.2	1.00	4.2	
4.1 発生源対策				5.0	0.59	5.0	0.63		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆、VOC放散量が少ない建材を全面的に採用		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.39	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	0.49	3.0	0.33		
2 自然換気性能				3.0	0.02	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.49	3.0	0.33		
4.3 運用管理				1.0	0.01	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				1.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.6	
1 機能性				2.9	0.40	2.4	1.00	2.4	
1.1 機能性・使いやすさ				2.9	0.40	2.0	0.60		
1 広さ・収納性				3.0	0.02	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.02	2.0	1.00		
3 バリアフリー計画				3.0	0.96	-	-		
1.2 心理性・快適性				2.9	0.30	3.0	0.40		
1 広さ感・景観				3.0	0.02	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.02	-	-		
3 内装計画				3.0	0.96	3.0	0.50		
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.7	0.30	-	-	2.7	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				2.7	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		劣化対策等級:等級2		4.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				2.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				2.6	0.30	2.9	1.00	2.8
	3.1 空間のゆとり			2.8	0.02	2.8	0.50	
	1	階高のゆとり	共用部分:3.61m、住居部分:2.91m	4.0	0.60	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40	1.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		駐車場:4000N/㎡	4.0	0.02	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			2.6	0.96	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.31	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.0
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			等級4相当	4.0	0.19	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 1.00	3.0	0.51	-	-	3.0
4 効率的運用				2.9	0.20	-	-	2.9
集合住宅以外の評価				2.0	0.06	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				3.0	0.94	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	2.5
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマ、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	1.00	-	-	
2			雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.4	0.60	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			—	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			—	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.3	0.20	-	-	2.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.0	0.70	-	-	
1			消火剤	1.0	0.50	-	-	
2			発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
3			冷媒	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率70%	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮				2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止			燃焼機器使用なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25	-	-	
1			雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
2			汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3			交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
4			廃棄物処理負荷抑制	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1			騒音	3.0	1.00	-	-	
2			振動	-	-	-	-	
3			悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1			風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
2			砂塵の抑制	3.0	-	-	-	
3			日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	0.70	-	-	
2			屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

F☆☆☆☆の建材の採用や品確法における断熱等性能等級4を満たす等、環境に配慮した設計になるように努めた。

Q1 室内環境

化学汚染物質による空気質汚染を回避するための対策として、F☆☆☆☆、VOC放散量が少ない建材を全面的に採用。

Q2 サービス性能

耐用年数を考慮し、住宅の品質確保の促進に関する法律におけるコンクリートの評価方法基準が等級2相当になるように努めた。

Q3 室外環境（敷地内）

周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させるように努めた。

LR1 エネルギー

品確法における断熱等性能等級が等級4相当になるように努めた。

LR2 資源・マテリアル

節水型便器を採用した。

LR3 敷地外環境

全住戸分の駐車スペースを確保した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)オーヴィジョン九品寺

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		67
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				71.2	0.40	28.48
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				57.5	0.20	11.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				62.2	0.20	12.44
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.7	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数